

# 訓子府町

8334 深川智史

## 1.概要

図1 町章

### 1.1 地名の由来

訓子府町の名は、アイヌ語で「クネブ」から転訛したもので「黒いところ、やち川にして水黒し」の意味から由来している。

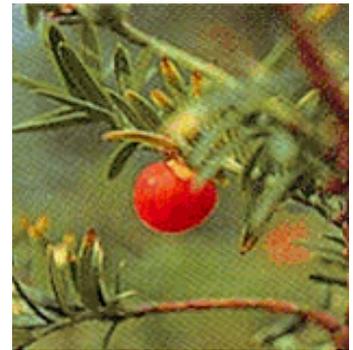


出典：訓子府町役場 HP

### 1.2 歴史

明治2年に蝦夷地という呼び名を北海道としこの地方は北見国常呂郡となり、明治30年に北光社移民団の内13戸が、オロムシ（現在の大谷地区）に入地したのが訓子府町の定住のはじまりである。明治44年に国鉄網走本線が開通し、訓子府駅が開業されると、辺境の地であった訓子府もにわかに活況をしめしはじめ、新しい農村への大きな躍進の時代を迎えることになった。大正4年、野付牛村に1級町村制が施行され、今の訓子府は置戸村の一部として分村独立し、さらに大正9年、置戸村から独立して訓子府村となり、開拓者の入地から23年を経て年来の宿願が達成された。その後、昭和26年11月に町制を施行し、訓子府町となり現在に至っている。

図2 町の木 オンコ



出典：訓子府町役場 HP

表1 訓子府町年表

1897年（明治30年）北光社移民団のうち13戸45人が居武士(オロムシ)に入地。
1911年（明治44年）網走本線訓子府駅開業。
1912年（明治45年）訓子府郵便局設置。
1915年（大正4年）4月 野付牛村（現北見市）から分村、置戸村となる。
1916年（大正5年）2月22日 居武士教授場(現在の居武士小学校)開校。
1920年（大正9年）6月 置戸村（現置戸町）から分村、訓子府村となる。
1921年（大正10年）ビート(テンサイ)の耕作はじまる。
1951年（昭和26年）11月 町に昇格、訓子府町となる。
1952年（昭和27年）9月 一部を置戸町へ分割。
1993年（平成5年）訓子府町図書館が平成5年度図書貸出率日本一(7年連続)。
2009年（平成21年）NHK 訓子府デジタルテレビジョン開局予定。

### 1.3 位置と地勢、概要

網走支庁管内の南西内陸に位置し、北見市より車で25分程。網走支庁 常呂郡にあり、北見市、置戸町、津別町、陸別町と隣接している。北見市に近いということもあり、生活圏も北見市に依存している。面積 190.89km<sup>2</sup>、総人口 5,830 人であり、町の花はオンコ、町の花はエゾムラサキツツジである。

図3 訓子府町の位置



出典：網走支庁 HP

図4 町花 エゾムラサキツツジ

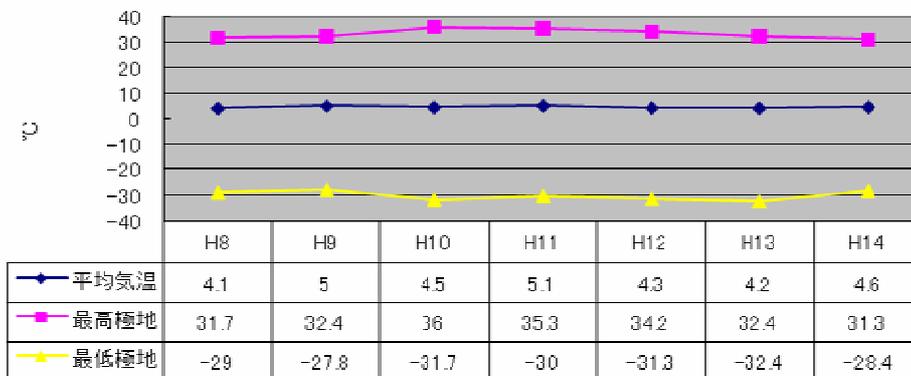


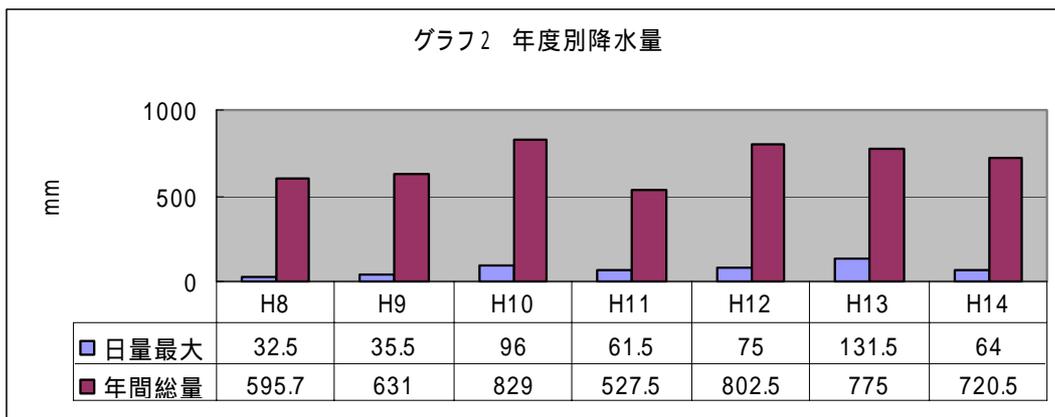
出典：訓子府町役場 HP

## 2. 気候

訓子府町はオホーツク海の影響が少なく、典型的な内陸気候である。また盆地特有の内陸性気候で寒暖の差が大きく、平均気温は4度から5度、最暖日の平均は20度から21度、最寒日の平均は零下8度から9度、年降水量は700mm程度と少なく、日照率は全国でも有数の高い地域であることが下の図表からも見て取れる。

グラフ1 年度別気温

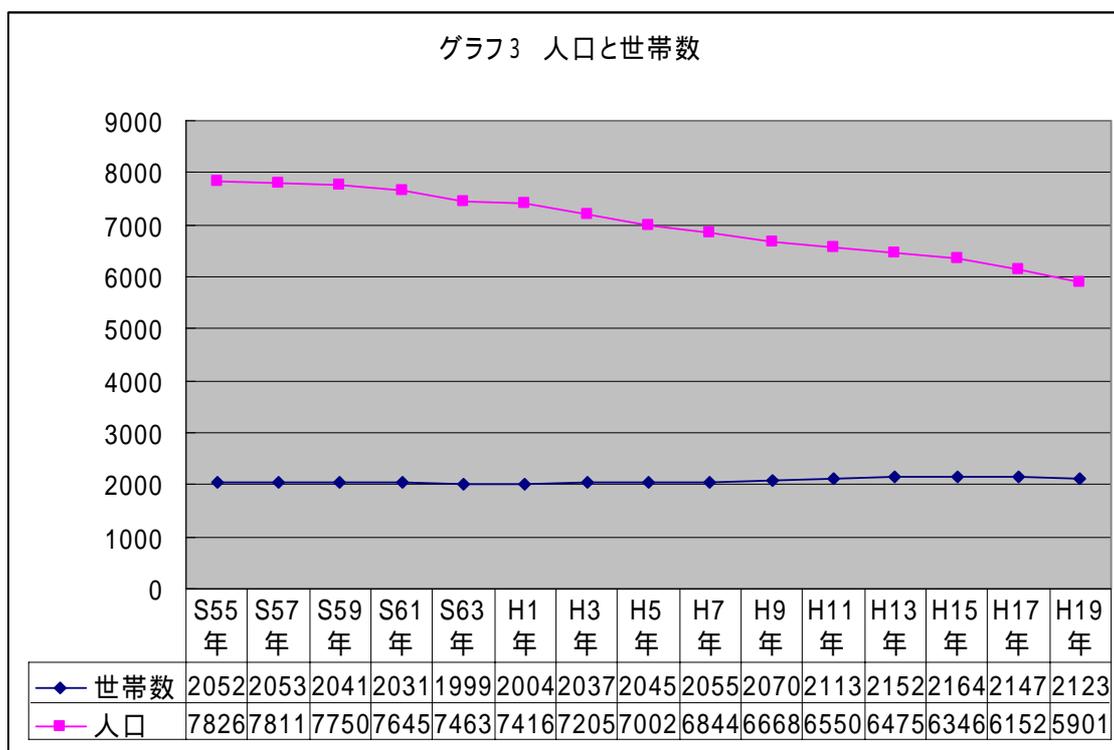




出典：訓子府町 HP

### 3.人口・世帯数推移

人口は徐々に減少傾向にあるが世帯数は少しではあるが増加していることがグラフからわかる。このようなことから高齢化に伴い高齢者の割合が全体的に増えてきているにもかかわらず核家族が増えていると思われる。

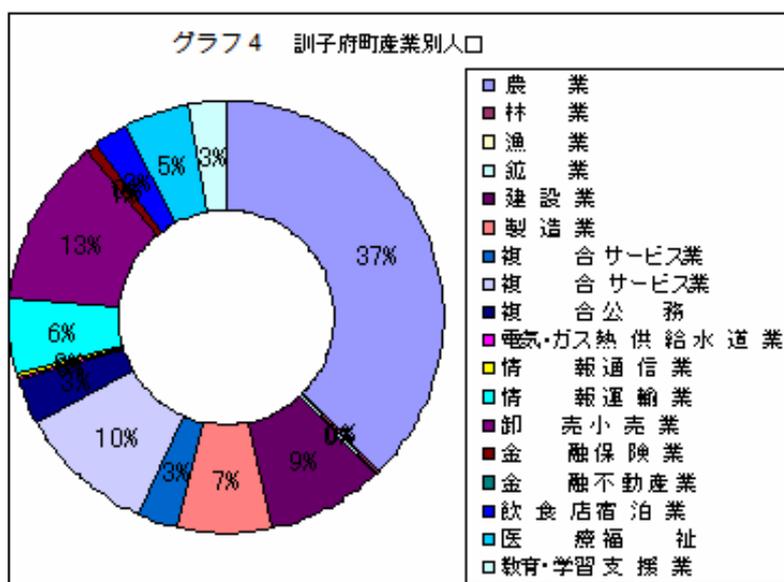
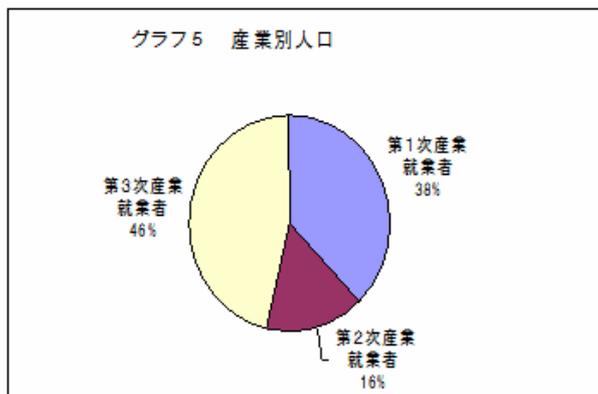


出典：訓子府町 HP

## 4. 産業・産業別人口

### 4.1.1 産業別人口

町の主要産業としてはやはり農業が上げられる全体の約 4 割をしめており、町の産業基盤となっている。ただ注目すべきは林業である。総体的な問題ではあるが、町として積極的に林業に関わっていると見える。

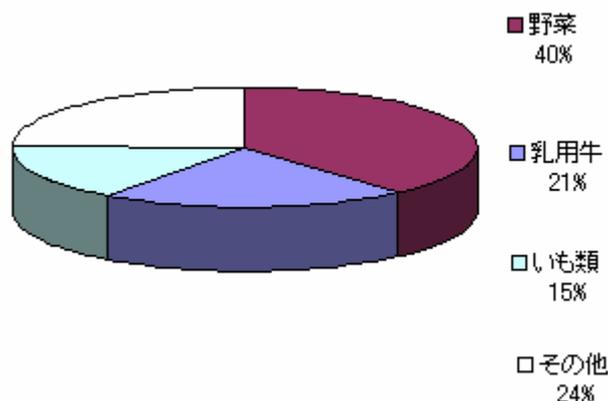


出典：市町村の姿

### 4.2 農業

町の基幹産業である農業は水稲・小麦・馬鈴しょ・てん菜・玉ねぎ・酪農を基幹作物とし、振興作物としては豆類・スイートコーン、特産物としては薬草・メロン・花卉、奨励作物としてはごぼう・いちごなどといった冷害に対処した農業振興と農家個々に適合した営農類型を設定して生産団地等の形成に努めている。

グラフ6 農業産出額の内訳



農家戸数は平成 12 年で 457 戸（昭和 53 年 632 戸）と減少傾向が続いているものの、経営

地面積は一戸あたり平均で約 13ha (同 8ha) と年々増加傾向にある。農業生産額では、生産基盤整備事業の積極的な推進、農業者個々の経営努力等もあり、平成 14 年生産額で 99 億 8000 万円 (同 64 億 7300 万円) となっている。しかしながら、近年の農業諸情勢は、後継者不足による離農や就業者の高齢化、農産物の輸入自由化など厳しい状況下にある。

表 2 訓子府町の特産品

訓子府メロン	すずらん味噌
	
<p>豊潤な香りと口当たりの良い甘さの "フルーツの逸品"</p>	<p>こうじ製造から手作りで、自然風味 にあふれている。</p>

出典：訓子府町役場 HP

#### 4.3 林業

町の面積 190.89 平方キロメートルの 51.7% が豊かな森林でおおわれており、そのうち 37.7% が人工林でカラマツが多く植えられている。森林面積に占める道有林は全体の 63.9%、私有林が 26.7%、町有林が 9.0% となっている。

#### 4.4 鉱工業

町の製造業の事務所数は平成 14 年で 6 カ所あり、飼料・食料品加工、木材・木製品加工、土石製品加工などの地場資源活用型が主たるもので平成 14 年の製造品出荷額は 70 億 7158 万円となっている。なお、事業数・従業員数・出荷額については年々減少傾向を示しているのが現状である。このような中で、工場地帯をある程度形成し、恒久的な土地利用が見込まれる日出地区に既存工場用地を除く約 7ha の「日出工場適地」を企業誘致等の受け皿として位置づけているが、近年の長びく景気低迷などの厳しい諸情勢の中で地理的・社会的条件にあまり恵まれていない本町にとっては一段と厳しいものがある。

#### 4.5 商業

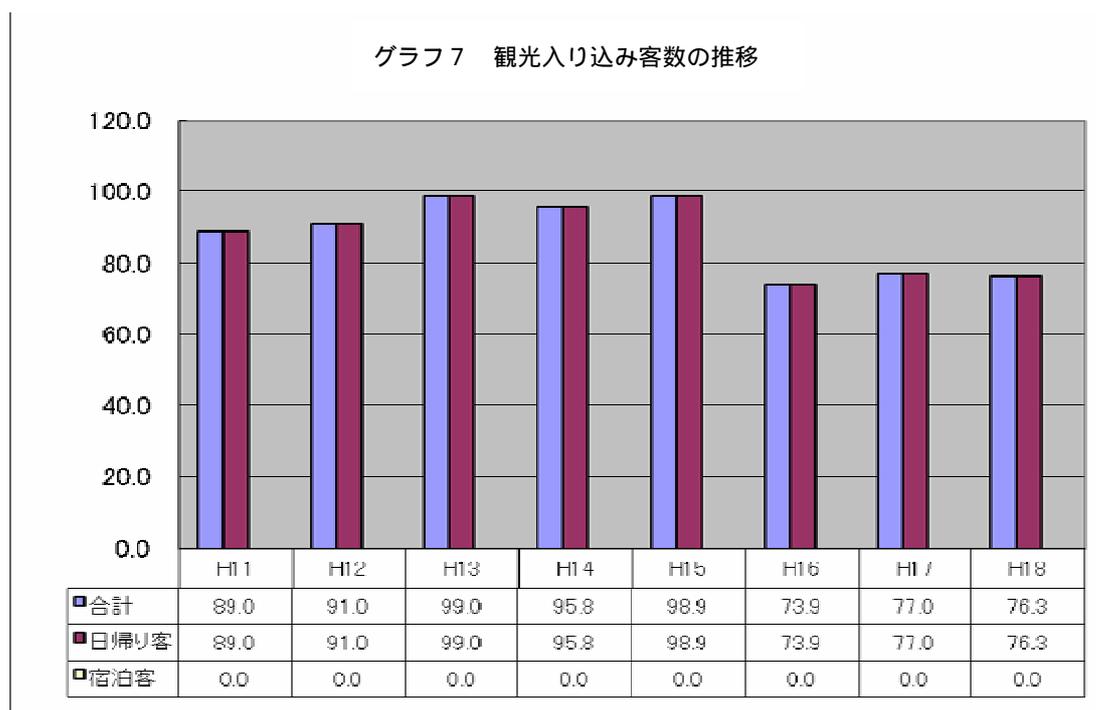
町の商店数は昭和 57 年の 86 店を最高に平成 14 年では 47 店に減少している。従業員数も昭和 57 年の 332 人を最高に、平成 14 年では 262 人に減少しているが、従業員一人あたりの販売額では昭和 57 年が 2287 万円であったものが、平成 14 年では 2403 万円となって

いる。近年、消費者ニーズの多様化や高級化による選別志向の高まり、さらには隣接する北見市へはわずか20分の時間的距離にあり、大型店進出によって商品の多くを北見市に求める傾向が強く一段と厳しい状況下にある。このようなことから、特に町外に流出する消費購買力を町内に吸収し、商店の活性化を図るためにはこのようなことから、特に町外に流出する消費購買力を町内に吸収し、商店の活性化を図るためには、消費者ニーズに応じた経営体質の改善などと併せ、商店街が単なる買い物の場に止まらず、暮らしの広場としての魅力ある商店街（市街地）への形成に向け、整備が進められている。

## 5. 観光

### 5.1 観光入込み客数

年を増すごとに観光入込み客数が減少している。また観光客がほとんど日帰りだという特徴もグラフから読みとれる。これらの要因としては目立った観光地がないこと、宿泊施設が充実していないことなどが考えられる。



### 5.2 観光地

おもな観光名所としては5月下旬にレクリエーション公園で行われる芝桜まつりがある。芝桜を見に多くの観光客が訓子府町を訪れている。そのほかには町民が毎年出演するゲストを心待ちにしている「歌と笑いのステージ」JAコーナー（焼肉コーナー、メロン等を販売）のほか、町内の婦人団体や商工会会員の売店コーナーがあり、祭りに来た人たちは

夏の一日を満喫することが出来る。これらのお祭りは町民の暖かさを身をもって感じられる素晴らしいイベントである。

図7 ふるさとまつり



図8 芝桜祭り



#### 参考HP

訓子府町役場<<http://www.town.kunneppu.hokkaido.jp/>>

商工会議所<<http://www.do-shokoren.com/kaido/okhotsk/kunneppu.htm>>

北海道口コミポータルサイト<<http://www.bfh.jp/area/city/154>>

網走支庁<<http://www.abashiri.pref.hokkaido.lg.jp/>>

wiki<<http://ja.wikipedia.org/wiki>>

市町村の姿<<http://www.tdb.maff.go.jp/machimura/map2/01-03/549/agriculture.html>>